

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%~99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

1. 全館共通項目

(1) 数値目標による評価

	視点	項目	指標	目標値		評価	目標値の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	利用状況	入館者	一日あたりの平均入館者数	230	人	B	221人×104%	
				214	人		開館日数:294日 総観覧者数:62,793人	
2	利用状況	常設展観覧者	一日あたりの平均観覧者数	230	人	B	221人×104%	
				214	人		開館日数:294日 総観覧者数:62,793人	
3	利用状況	情報提供サービス	年間レファレンス対応件数	526	件	B	547件×96%	
				482	件			
4	利用状況	インターネットの活用	年間HPアクセス件数	871,409	件	C	677,836件×129%	
				311,600	件		更新256回	
5	広聴・広報	事業情報の発信	対マスコミ情報発信件数	338	件	A	304件×111%	
				402	件		掲載件数 196件	
6	効率的運営	経営努力	観覧料および事業等収入額	6,423,000	円	B	当該年度予算計上額	
				6,023,524	円		観覧料: 5,395,460円 その他:628,064円	

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標		評価	実施目標の設定根拠	
				達成値			特記事項	
1	資料の収集・保管	資料の収集	収集方針に基づいた継続的な収集事業の実施	14	件	A	別紙チェックリストによる	
				14	件			
2	資料の収集・保管	資料の保存・管理	適切な保存・管理の実施	18	件	A	別紙チェックリストによる	
				18	件			
3	展示・教育普及	資料の活用	展示・公開・貸出等での資料活用状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	展示・教育普及	常設展示	来館者に配慮した展示運営	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
5	展示・教育普及	学習支援事業	参加者に配慮した事業運営	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
6	連携・協働	県民との連携・協働	連携・協働の実施状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			
7	調査研究	調査研究活動	活動状況および成果の公開状況	10	件	A	別紙チェックリストによる	
				10	件			
8	施設・アメニティー	快適空間の提供	施設・設備の改善状況	13	件	A	別紙チェックリストによる	
				13	件			
9	施設の活用	施設の利活用	施設の利活用状況	7	件	A	別紙チェックリストによる	
				7	件			

2. 館別独自項目  
(1) 数値目標による評価

評価基準	
目標値の達成度(100%以上)	A
目標値の達成度(80%～99%)	B
目標値の達成度(80%未満)	C

	視点	項目	指標	目標値 達成値		評価	目標値の設定根拠 特記事項	
1	資料活用	展示活用	館内利用数	1,335	点	A	目標数 特別展1回、企画展3回	
				1,337	点			
2	資料活用	展示活用	館外利用数	350	点	A	目標数 館外貸出	
				356	点			
3	展示	常設展	満足度	80	%	A	アンケート回答数 620/637	
				97.3	%			
4	展示	特別展・企画展	満足度	80	%	A	アンケート回答数 591/637	
				92.7	%			
5	学校利用	利用促進	要望調査	15	校	A	予定数	
				22	校			
6	学習支援	普及事業	満足度	80	%	A	アンケート回答数 271/277	
				97.8	%			
7	学習支援	学校教育への支援	館および周辺環境の観察指導	50	件	A	昨年度実績を参考	
				58	件			
8	学習支援	社会教育等への支援	外部施設・周辺環境への派遣件数	30	件	A	昨年度実績を参考	
				33	件			
9	情報発信	インターネットの活用	ツイッター数	300	回	A	1日1回(開館日)	
				406	回			
10	県民との連携・協働	ボランティア・外部研究者	活動日数	200	日	A	昨年度実績を参考 外部研修者186、ボランティア278	
				464	日			
11	調査研究	成果発表	研究成果の発表	14	件	A	学芸系職員一人1件 研究報告、研究発表、その他	
				20	件			
12	シンクタンク機能	高等教育への支援	大学実習などの対応数	6	件	A	昨年度実績	
				6	件			
13	シンクタンク機能	指導者支援	指導者向け支援・育成プログラムの実施	11	回	B	昨年度実績	
				10	回			

評価基準	
チェックリストのクリア数(8割以上)	A
チェックリストのクリア数(5割以上)	B
チェックリストのクリア数(5割以下)	C

(2) チェックリストによる評価

	視点	項目	指標	実施目標 達成度		評価	実施目標の設定根拠 特記事項	
1	魅力ある展示	企画展示事業の実施	埼玉の自然情報を発信する企画展の実施状況	3	件	A	別紙チェックリストによる	
				3	件			
2	多様な学習支援プログラムの提供	学習支援システムの確立	学習支援体制の充実度	4	件	A	別紙チェックリストによる	
				4	件			
3	連携・交流	共催・連携展の実施	共催・連携展の実施状況	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			
4	シンクタンク機能	シンクタンク機能の発揮	シンクタンクとしての社会貢献度	9	件	A	別紙チェックリストによる	
				9	件			

年度内に取り組んだ重点事業、新たな取り組み等

事業の概要	<p>1. 国指定天然記念物関連事業 国の天然記念物に指定予定の化石群を用いた事業の実施</p> <p>2. 常設展示(生物展示ホール)の一部改修 鍾乳洞のコルトンを展示ケースへの変更、展示ケースの設置、展示物の補充</p> <p>3. 関連団体との協働 秩父鉄道とのミュージアムトレインとラッピング電車での共同事業、長瀨町観光協会との紅葉ライトアップの連携</p> <p>4. 共催展・出張展示の開催 新たな取り組みとして、共催展だけではなく当館が飯能市市民活動センターで企画展を開催</p>
事業の成果	<p>1. 国指定天然記念物関連事業 天然記念物(指定予定)の解説書及びパンフレットを作成、配布した。企画展で該当の化石群を展示中であり、解説を追加した。本件は多様なメディアに取り上げられ、多くの問い合わせがあり宣伝効果が高かった。また、12月には埼玉県議会観光産業政策議員連盟の視察があった。</p> <p>2. 常設展示(生物展示ホール)の一部改修 新設した展示ケースには、これまで対応できていなかった鍾乳洞の昆虫や石灰岩地の植物を展示した。ジオラマには新たに剥製標本や植物レプリカを追加し、またこれまでなかったキノコ類も展示した。ジオラマのボーダーには可動式の亚克力展示ケースを設置し、個別のテーマを展示した。あわせて、展示室全体の照明を交換・追加した。これらにより、より多くの情報を提示でき、見やすさも大幅に改善され、展示効果が高まった。</p> <p>3. 関連団体との協働 秩父鉄道と8月にSLミュージアムトレインを、12月にジオパークトレインを共催した。また、11月14日～29日には長瀨町観光協会と連携し、紅葉ライトアップを行った。また、秩父鉄道・秩父まるごとジオパーク推進協議会・学研教育出版の企画「ラボ・トレイン」に協力した。国立学博物館と日本博物館協会が主催した「教員のための博物館の日」に参加した。これらにより、博物館を知っていただき、来館へと誘導できるとともに、学校での活用方法の理解を高めた。</p> <p>4. 共催展・出張展示の開催 飯能市市民活動センターで7月10日から31日まで出張展示「埼玉の化石と地質」を開催し、8,895名の来館者があった。また、7月26日には講演会を開催し、45名の参加があった。共催展としては、羽生市立図書館・郷土資料館で「埼玉の鳥と生きもの」(7月18日～8月31日:来館者3,572名)を実施した。また、出張展示ほど大掛かりではないが、7月30日から9月12日まで鴻巣シネマで恐竜時代のアンモナイトを展示し、期間中34,358名の来訪があり、8月12日には映画上映前に「自然の博物館がやってきた」のタイトルで事前説明を行い、博物館のPRを図り、認知度を高めた。</p>

基礎データ

職員数 (学芸員数)	19 (9)	総予算額 (人件費を除く)	15,650,000円	職員一人あたりの県民人口	38.1万人
収蔵資料総点数	157,396	事業経費 (上記の内数)	8,736,000円	利用者一人あたりのコスト (平成26年度)	245円
平成27年度 収集資料点数	1,505	特定財源予算額 (うち観覧料収入)	6,423,000円 (5,804,620円)	県民人口に対する利用者割合 (平成26年度)	0.92%

(注)平成27年4月1日現在の埼玉県推計人口 7,242,442人

平成27年度 博物館施設 総合評価

施設名 自然の博物館

		A評価	B評価	C評価
全館共通	数値目標による評価	1	4	1
	チェックリストによる評価	9	0	0
各館独自	数値目標による評価	12	1	0
	チェックリストによる評価	4	0	0

自己評価総括

評 価	<p><b>○全館共通項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標による評価では、A評価が1項目、B評価が4項目、C評価が1項目であった。</li> <li>・A評価は「広聴・広報」で、特別展や国の天然記念物指定の件など多様なマスメディア等への情報提供の結果である。</li> <li>・B評価は、「入館者数」、「常設展観覧者」、「年間レファレンス件数」、「観覧料および事業等収入額」で、それぞれ目標値の93%、93%、92%、94%であった。これは1月の休館の影響が考えられる。</li> <li>・C評価は「年間HPのアクセス件数」で目標値の36%であり、ここ数年減少傾向にある。更新数が増えなくても必ずしも増加していない。</li> <li>・チェックリストによる評価では全項目A評価であった。</li> </ul> <p><b>○館別独自項目</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・数値目標による評価では、A評価が12項目、B評価が1項目で、C評価はなかった。</li> <li>・B評価は「指導者向け支援・育成プログラムの実施」であり、目標値の91%であった。</li> <li>・チェックリストによる評価では、全項目A評価であった。</li> </ul>
課 題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの項目が入館者数と連動するものであり、入館者数の維持・確保が課題である。</li> <li>・県内唯一の自然系総合博物館として、魅力ある展示事業を始め、教育普及事業や調査、資料の保管・管理・活用、地域や他館との連携を図っているが、館の対応能力と要望等との面で調整が課題である。</li> </ul>
対 応 の 方 向	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに指定された天然記念物の哺乳類化石の活用や展示室の更新を進め、また、魅力ある特別展や企画展を実施し、博物館の魅力度を高める。</li> <li>・博物館の広報手段はもとより、マスメディアだけでなく各種メディアへの情報提供や研修会などのあらゆる機会を用いての博物館活動の広報を行い、博物館の認知度を高め、来館の意識を持ってもらう。</li> <li>・事業等の優先度を見極めながら、より満足度の高い館運営を図る。</li> </ul>

## 評価結果に対するコメント

### 1. 全体に係る評価

各館協議会・委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・評価の基準とされている目標値の設置根拠の設定がわかりにくい。例えば入館者に関しては目標値の日平均入館者数を230人とされており、これは「221人×104%」を根拠としているが、なぜ221人の104%なのかがよくわからない。</li><li>・数値目標による評価の場合、単年度評価に合わせて5～10年程度の実績値の経年変化を示していただくと、利用状況等のトレンドが見えて評価しやすくなると思う。</li><li>・全館共通項目(1)数値目標による評価の項目6(観覧料及び事業等収入額)が昨年度はAだったが、項目1、2の入館者や観覧者の増加にもかかわらずH27年度は評価基準のBに下がったことに対し今後一層の経営努力が必要と考えられる。</li><li>・昨年度の常設展地学展示ホールのリニューアルに引き続き、生物展示ホールがより工夫された展示にリニューアルされて見学者の動線が改善され、より見やすく興味を引く展示になったこと。興味深い内容の特別展、企画展や観察・体験イベントが多数継続的に実施されていることなど、充実した展示事業が展開されている。資料の収集・保管、教育活動、研究活動も着実に進められ、成果を上げていると考える。</li><li>・生物展示ホールが以前よりも明るくなったため、剥製標本や植物レプリカ(キノコ類を含む)が昨年度よりも見やすくなった。説明にあったように、一点一点の動物や植物にもっときちんとスポットライトがあたるようになれば、観覧者は一層興味を持って見ることができよう。</li><li>・「花粉が教えてくれること」や「カラフル昆虫記」も面白い企画だった。小学校高学年の教科書にはきれいな花粉の写真が載っている。児童が顕微鏡で観察しても写真ほどきれいに見ることができないのが現状である。そういった意味で「体験コーナー」で花粉をきちんと見せることは大事でよい企画だった。</li></ul>
--------------	---

### 2. 全館共通項目に係る評価

評価小委員会の意見	<ul style="list-style-type: none"><li>・数値では入館者数は目標値より下回ったものの、さまざまな広報の工夫や関連団体との協働・他館との共催展など、認知度をあげる努力がなされていることを評価したい。また限られた人員のなかで学校利用も増加しており、魅力あるイベントも多くおこなわれている。今後も積極的に広報をおこないながら、こうした教育普及に力を入れていただければと思う。</li><li>・インターネットの課題は各館共通ゆえ省略。</li><li>・ほとんどの項目がAゆえ、特に申し上げることはないが、さらなる高評価のために思いつくことを若干。</li><li>・先生の右腕になるような仕掛けはできないか？先生とて万能ではない。館が先生のための「お助けマン」(教師が児童・生徒に上手に教えるアンチョコ)の役割を担えば、教師間の話題につながる。教師と一緒に取り組めるテーマはないか。自然系に関しては、先生が安心して自信を持って授業に臨める。</li><li>・化石という魅力あるコンテンツをお持ちなのだから、地域鉄道等との連携と共に、客の多いところをピンポイントに狙った広報活動、具体的にはウェブ上でSNSを活用した広報があったらよいと思う。</li></ul>
-----------	---